
2024 年度 JWU 女子高等教育センター 活動報告

JWU 女子高等教育センターは、本学の建学の精神、教育理念を実現するため、学生の視点に立った継続的な教育改革を教職協働で進め、本学における教育の質の向上に寄与することを目的とし、教学マネジメントの一翼を担う機関として 2019 年 6 月 1 日に設置されました。センター所長と 6 名のセンター委員及び事務局である教学企画課を中心に学修支援課の協力を得て、教職協働で教育改革に関する検討事項等、教育改革を推進するための幅広い検討と提案を行っています。2024 年度は学修者本位の大学教育の実現に向けた取り組みを推進するとともに、第 4 期認証評価受審に向けた大学院 3 ポリシーの見直しや、人材養成・教育研究上の目的に関する規程の見直しを行いました。また、大学院修了時アンケートや大学院授業アンケートの導入等、学修成果の把握を目的とした新しい取り組みについて検討及び提案を行いました。

構成員

センター所長 和賀 祥（理学部）
センター委員 伊ヶ崎 大理（担当理事・家政学部）
和田 直人（家政学部）
西原 直枝（家政学部）
加藤 玄（文学部）
平田 由紀江（人間社会学部）
黒岩 亮子（人間社会学部）

センター委員ミーティング開催日

第 1 回 2024 年 4 月 11 日（木）
第 2 回 2024 年 5 月 16 日（木）
第 3 回 2024 年 6 月 13 日（木）
第 4 回 2024 年 7 月 19 日（金）
第 5 回 2024 年 10 月 17 日（木）
第 6 回 2024 年 11 月 14 日（木）
第 7 回 2024 年 12 月 5 日（木） ※メール審議

- 第 8 回 2025 年 1 月 30 日 (木)
第 9 回 2025 年 2 月 13 日 (木)
第 10 回 2025 年 3 月 7 日 (金) ※メール審議

JWU 女子高等教育センター主催によるセミナー

第 1 回 2025 年 2 月 20 日 (木)

リクルート進学総研所長・カレッジマネジメント編集長 小林 浩氏による講演の視聴
テーマ：『急激な少子化が進行する中での将来を見据えた高等教育の在り方について』
～中教審答申（案）と大学の対応を考える～

主な検討課題

・大学院 3 ポリシーの見直し

2022 年度に実施した大学及び学科の 3 ポリシーの見直し (2024 年度導入) に続き、教育改革の柱である学修者本位の教育の実現を目的として、大学院及び専攻の 3 ポリシーについて見直しを開始しました。入学試験協議会や各研究科・専攻と連携し、2027 年度導入に向けて検討を進めています。

・授業アンケートを用いた授業改善の取組

改善が必要と思われる自由記述コメントを総括し、教育の質保証の観点から対応策を講じる必要がある事例については、全授業担当者に注意を促す文書を発信すると共に、ポスターを掲示しました。また、複数の学生から同内容の改善を求められたり、2 期以上にわたり改善を求められたりした授業担当者に対しては、学長及び JWU 女子高等教育センター所長から授業改善を促す文書を発信し、対応を依頼しました。

回答率向上を目的として、2021 年度以降の回答率推移と授業時間中に実施した場合としなかった場合の回答率分布を各学科へ共有したり、回答期間中の回答率を随時掲示したりする等、様々な取り組みを行いました。

・大学院修了時アンケートの導入

今年度より、学位授与方針で示している学修成果を把握・評価することを目的として、全大学院修了生を対象とした修了時アンケートを導入しました。

・大学院授業アンケートの導入

内部質保証の一環として、2025 年度より授業改善を目的とした大学院授業アンケートを導入することを決定しました。

・ 教学 IR の推進

IR の推進の一環として作成しているファクトブックを 2024 年度版に更新し、学内に公表しました。広報関連の項目と、入試関連項目の中に総合型選抜入試の項目を追加しました。また、学部・学科の再編に伴い、在籍者数と入学者数の表記を学科ごとに記載するよう修正しました。

・ 「日本女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」の改正

第 3 期認証評価で受けた指摘への対応として、「日本女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」を改正し、2025 年 4 月 1 日より施行することになりました。人材養成・教育研究上の目的を博士課程前期と後期に分けて記載し、課程ごとの目的をより明確化しました。

・ 新任教員研修の実施

新任教員全員を対象に、学修者本位の教育への転換や本学の教育改革への取り組みを理解してもらうための研修を実施しました。

・ 初年次教育の実施

2024 年度新生向けの全学的な初年次教育を 2024 年度新生オリエンテーション期間に実施しました。2024 年度新生は全員、三綱領、大学での学び、授業アンケート、ポートフォリオ「マイステップ@JWU」等をテーマに当センターが作成した初年次教育に係る動画を視聴しました。

所長メッセージ

いま全国の大学で進められている教育改革の要は、学修者本位の教育への転換です。その中で最も実質化が難しいと思われるのが、学修成果の達成度の可視化です。学修成果は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー(以下「DP」)）として提示する卒業や修了までに身につけるべき資質・能力のことであり、その達成度の可視化とは、その資質・能力をどの程度身につけたかを学修者（学生）と教員が把握することです。その資質・能力の測定は、学生と教員が共有する具体的な基準ならびに客観的なエビデンスに基づいて行われることが理想ですが、資質・能力によっては、測定困難なものや学生の主観的な評価に頼らざるを得ないものもあります。

達成度の測定は様々な方法で行われ、定期試験、発表等のパフォーマンスの評価および論文や作品の評価も、DP 達成度の測定に関係するものです。しかし、一方向での評価では不十分なことが多く、試験の結果が学生にフィードバックされ、また、発表や論文の評価では、何がどういう基準で評価されるかを学生と教員で共有することが、達成度の可視化では重

要です。また本学では、授業アンケートおよび卒業時（修了時）アンケートも DP 達成度測定において重要な役割を担います。これらのアンケートは現在のところ、学生による主観的な評価に留まっています。これらの評価をさらに実質化するためには、ルーブリック等を用いて、評価の具体的な指標と基準を示し、学生と教員で同じ基準で評価を把握できるようにする必要があります。

ポートフォリオ（マイステップ@JWU）および PROG テストも加え、本学では多岐に渡る方法で達成度の測定と可視化に関わる取り組みを行っています。しかし、前述のように客観的な、共通の基準の下での達成度評価が十分に行われているとは言えません。大学のユニバーサル化の時代になり、多様なニーズをもった学生が入学している本学においても、DP の達成度評価の可視化がより実質的なものとなるよう取組を推進し、出口での質保証をさらに社会にアピールできるようになればと考えています。